

閉会挨拶

橋村 昭一 (秋田中高年雇用福祉事業団)

今日集まってくれた皆さん本当にご苦勞様でした。皆様には長い時間本当にまじめに議論されて心から感謝の意を表したいと思えます。

最後ですが一言だけ、協同労働法の制定問題が国会で何とか議員立法で法律をつくりたいということで進められています。相当のところまで来ていますがさまざまな政党をまとめるのは大変なんです。至難です。最終的には全国の世論をどうするかにかかってきます。今、組合員が国会に行って陳情を行っている最中であります。東北でもこういう集会を各県で開きながら幅広く地元の議員に協力に陳情しながら協同労働の協同組合法制化に向けて努力するのが一番大切だと私は思います。

秋田県は大変な時代がきております。秋田にはTDKという大きな会社があります。ここが猛烈な合理化を行っています。大変です。今の企業の方々は日本人の労働者なんてどうでもいいような考えになってきているんです。自分さえ儲ければどこでもいくと、その労働者はお前たち勝手にしろというような状態になっています。秋田のある会社は今月の末全員解雇しました。570名です。今度は2ヶ月雇用なんです。1年に2ヶ月しか仕事ができないと。労働組合で一生懸命交渉をしていますが、難しいです。何かあれば中国に行くと。安い賃金で物を生産するという考えが相当あります。

もう一つは、政府だけでもこの国を守るこ

とはできない、やはり労働者協同組合なんです。これがないと労働者を守っていくことはできないだろうと私は思っています。われわれも必死になってここ6、7年、協同組合法の制定に闘いぬいてきました。やっと今、富士山の山に上がろうとしています。あと一息なんです。みなさんにおかれては地元に戻りましてより発展をさせるための運動をしていただきたいと思ひまして、閉会の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございます。



平成 13 年 9 月 26 日付河北新報